

第13回 SIP 自動運転 推進委員会 議事概要

1. 日時 令和3年3月3日(水)10:40~12:00

2. 場所 ウェブ会議および中央合同庁舎8号館6階623会議室

3. 出席者:(敬称略)

(議長) 葛巻 清吾	プログラムディレクター
(SPD) 有本 建男	政策研究大学院大学 客員教授 兼 科学技術振興機構 研究開発戦略センター 上席フェロー
(SPD) 白土 良太	日産自動車株式会社 法規・認証部 アライアンス技術渉外グループ シニアエンジニア
(SPD) 杉本 洋一	株式会社本田技術研究所 先進技術研究所 エグゼクティブチーフエンジニア
朝倉 康夫	東京工業大学 大学院 土木・環境工学系 教授
天野 肇	ITS Japan 専務理事
石井 昌道	自動車ジャーナリスト
岩貞 るみこ	自動車ジャーナリスト
大口 敬	東京大学 生産技術研究所 人間・社会系部門 教授
加藤 晋	産業技術総合研究所 首席研究員
鎌田 実	日本自動車研究所 代表理事 研究所長
河合 英直	自動運転基準化研究所 所長 兼 自動車技術総合機構 交通安全環境研究所 自動車研究部 部長
教野 秀樹	日本自動車部品工業会 (住友電気工業(株)CAS-EV 開発推進部戦略企画部 担当主幹)
小出 啓介	電子情報技術産業協会 (ソニセミコンダクタソリューションズ株式会社 車載事業部 オートモティブ戦略部 国際標準化戦略室室長)
児玉 俊介	電波産業会 専務理事
日笠 暁生	スズキ株式会社 常務役員 四輪電気・電子技術本部長 (高柴構成員代理)
横山 利夫	本田技研工業株式会社 四輪事業本部 電子制御開発統括部 エグゼクティブチーフエンジニア
平井 淳生	内閣官房 情報通信技術総合戦略室参事官
牧野 充浩	警察庁 長官官房参事官

江原 真一郎 総務省 総合通信基盤局 新世代移動通信システム推進室
(五十嵐室長代理)

植木 健司 経済産業省 製造産業局 自動車課 ITS・自動走行推進室 室長

西川 昌宏 国土交通省 道路局 道路交通管理課ITS推進室室長

多田 善隆 国土交通省 自動車局 技術政策課 自動運転戦略官

オブザーバー

水田 剛 文部科学省 科学技術・学術政策局 研究開発基盤課
総括・交流係長 (仙波課長代理)

吉田 糸麻 東京都 都民安全推進本部
総合推進部渋滞対策担当課長 (斎田部長代理)

岡 紳一郎 日本自動車工業会 技術統括部長

梅田 学 内閣府 国際連携コーディネーター

管理法人

林 成和 新エネルギー・産業技術総合開発機構 ロボット・AI 部
SIP グループリーダー統括研究員

事務局

覚道 崇文 内閣府 大臣官房審議官(科学技術・イノベーション担当)

垣見 直彦 内閣府 政策統括官(科学技術・イノベーション担当)付 SIP 担当参事官

古賀 康之 内閣府 政策統括官(科学技術・イノベーション担当)付 自動運転リターナル

植木 健司 内閣府 政策統括官(科学技術・イノベーション担当)付 自動運転サブリーダー

田中 俊和 内閣府 政策統括官(科学技術・イノベーション担当)付 上席政策調査員

4. 議題(非公開部:第14回道路交通ワーキンググループから連番)

- 6)東京臨海部実証実験TF構成員等の変更
- 7)2020年度GB評価決定報告
- 8)2021年度以降の研究開発の推進
 - (1) 研究開発計画の骨子(案)
 - (2) 東京臨海部実証実験
 - (3) 仮想空間での安全性評価環境の構築
 - (4) 新たなサイバー攻撃手法と対策技術
 - (5) 地理系データの自動運転アーキテクチャの構築
 - (6) 地方部における移動・物流サービスの社会実装
- 9)SIP自動運転 中間成果発表会・地域自動運転サミット
- 10)SIP自動運転の今後の予定

5. 配布資料

資料6	東京臨海部実証実験 TF 構成員(案)	【非公開資料】
資料7	2020 年度 GB 評価決定報告	【非公開資料】
資料8	2021 年度以降の研究開発の推進	【非公開資料】
資料9	SIP 自動運転 中間成果発表会・地域自動運転サミット	【非公開資料】
資料 10	SIP 自動運転の今後の予定	【非公開資料】
参考資料1	道路交通ワーキンググループ構成員名簿	【公開資料】
参考資料2	SIP 自動運転 2020 年度施策 施策一覧	【公開資料】
参考資料3	SIP 自動運転 WG/TF 等 構成員名簿	【公開資料】

6. 議事概要【非公開部】

(略)

8)2021年度以降の研究開発の推進

- 資料8に基づき、下記(1)~(6)について報告がなされた。

(略)

(2) 東京臨海部実証実験

- 南方リーダーより、これまでの取組内容と、新型コロナの影響などを受けて1年延長し、新たな取組も含めて実証実験を継続する事などが報告された。
- 世界的に見ても稀有な実証実験環境であるので、シミュレーションの空間と連動した実験など含め、標準化など国際的なリーダーシップを取って進める事や、逆に、検討しているインフラデータが得られなかった場合のリスクを検証する重要性などの意見が出された。

(3) 仮想空間での安全性評価環境の構築

- 神奈川工大の井上教授より、センサに注目した安全性評価のシミュレーションの取組について報告がなされ、他のシミュレーションとの接続性や、既存のデータベースの体系化についての課題を受け、次年度以降の取組として、データベースの体系化と活用、他プロジェクトや機関との連携による国際的な標準としてのブランド化の推進、事業化の推進が説明された。

(4) 新たなサイバー攻撃手法と対策技術

- 上原リーダーより、IDSに着目した性能評価、手法の確立の取組につき報告がなされ、2021年度は、業界団体と連携しガイドラインのドラフト策定を目指す事が説明された
- 海外との連携や、異業種との連携の取組につき質問がされ、業界を通じた連携の取組や、SIPとしての日独連携プロジェクトの取組などが説明された。

(5) 地理系データの自動運転アーキテクチャの構築

- NTTデータの磯様より、交通環境情報、地理系データに関する「カタログ掲載」としてのポータル「MDcommunit」の取組について説明がなされ、2021年度は、ポータルへのデータ

掲載の価値の向上や、データ活用推進の為のアプリコンテスト、実装の為の連携体制に係る参画推進などを行う事が説明された。

- 地理系データが自治体などでも活用できる様、簡単なインターフェースのウェブGISの様な仕組みも検討すべき、との意見が出された。